

「農業用温室の設置コスト低減に向けた技術提案会」 提案資料

提案者名： 熊本県農林水産部生産経営局農産園芸課
審議員 上田 慎二

問い合わせ先 電話：096－333－2391
メールアドレス：ueda-s-dh@pref.kumamoto.lg.jp

提案事項： 低コスト耐候性ハウス、低コスト環境制御機器（チャンネル数の絞り込み）及び養液土耕を組み合わせた熊本県の次世代施設園芸

提案内容

○方針 低コスト耐候性ハウス（丸屋根型）＋低コスト環境制御機器＋養液土耕システム

【理由】

- ・熊本県は消費地から遠隔地であり輸送コストが高くなることから、生産コストをできるだけ低減することが必要
- ・生産コストをできるだけ低減するため、低コスト耐候性ハウスをこれまで導入（約190ha）、これからも導入
- ・生産コストを低減するため、チャンネル数を必要最小限（21チャンネル）に絞り込んだ低コスト環境制御機器を開発（設置経費込：2,100千円/棟※）、28年度から普及開始（12ha） ※連棟ハウスの面積に関係なく1棟単位の価格
- ・施設園芸農家の初期投資額を抑制することが必要（一般的な連棟ハウス面積：約27a）

【課題】

- ・温暖化に伴う猛烈な台風への対応
- ・低コスト耐候性ハウス（丸屋根型）のより低コスト化（開発含む）
- ・低コストの養液土耕システムの選定

期待される効果

- ・収量向上 4t/10a（低コスト耐候性ハウス（丸屋根型）＋低コスト環境制御機器）

30a当たりの導入コスト 目標 4, 000万円程度

- ・低コスト耐候性ハウス 3, 600万円
- ・低コスト環境制御機器 210万円
- ・養液土耕システム 300万円

（試算したハウスの軒高は2. 5m）

熊本県の次世代施設園芸の振興方針

現状

連棟ハウス(強化含む)



低コスト耐候性ハウス



+

土耕栽培



将来

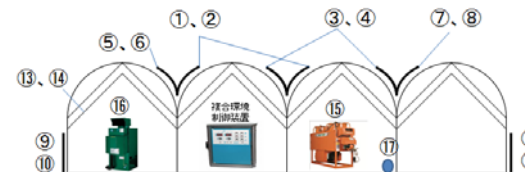
低コスト耐候性ハウス



低コスト環境制御機器

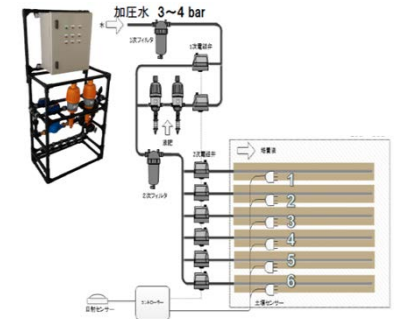


+



+

養液土耕栽培システム



制御するハウス付帯機器	制御部位 (下図)
自動開閉装置 (谷部)	①～⑧
自動開閉装置 (側部)	⑨～⑫
内張り自動カーテン装置	⑬、⑭
暖房機	⑮
炭酸ガス発生装置	⑯
自動灌水装置	⑰
予備	⑱～㉑

トマトの収量を、現在の平均14t/10aから18t/10aを目指す